

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



自天和至文久
仙臺伊達家制法禁

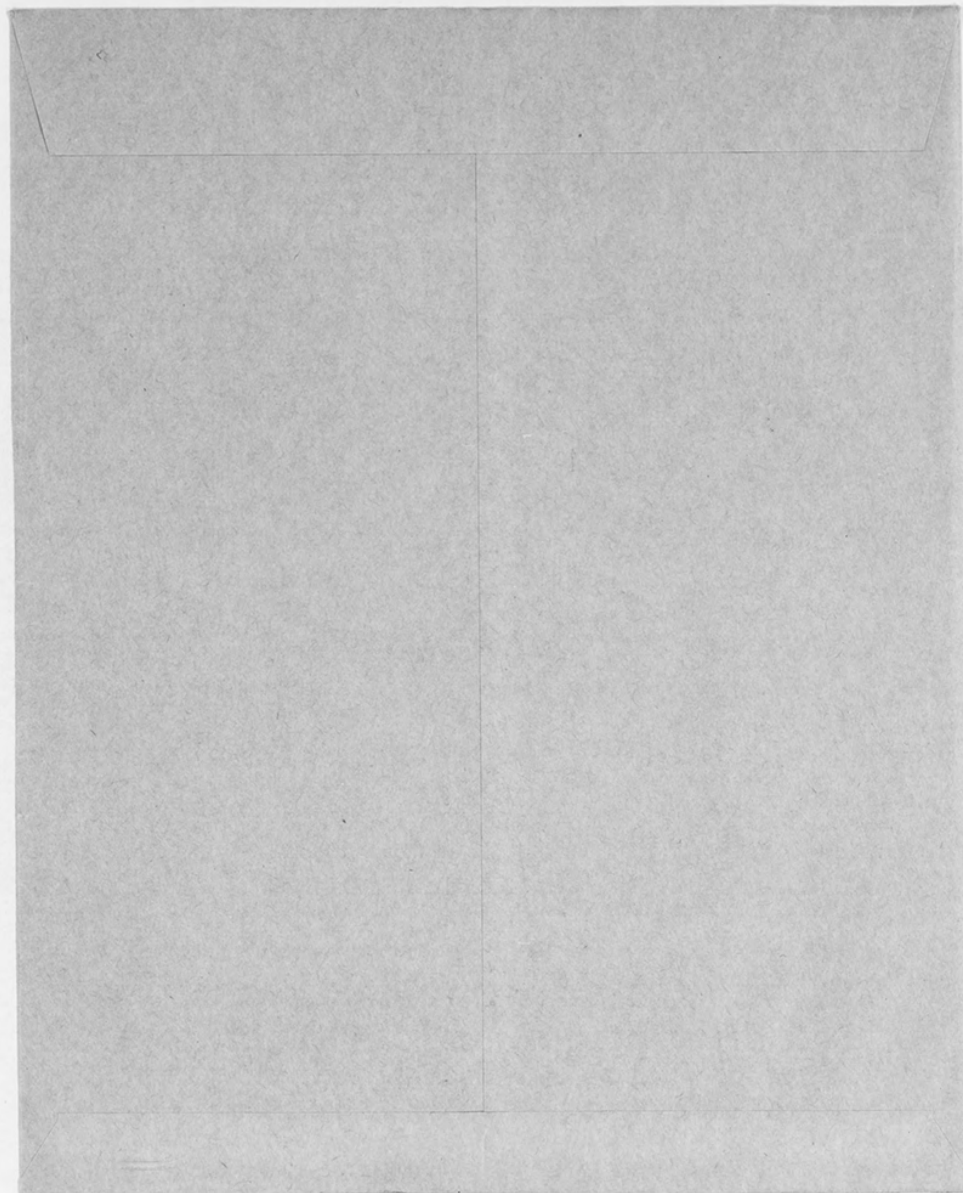
一三

東大・経済
80
378

文学部

13-3 (= 統) 文京区本郷7丁目3番1号
)2111(代)

二
統
3



續法禁格令

亨 二



経済 41665

経済学部
研究室
80
378
1689



朱書

二ノリノリ

一ノリノリ

法禁格ハ令老之

目録

一ノリノリ

二ノリノリ

三ノリノリ

四ノリノリ

五ノリノリ

六ノリノリ

朱書

一 以仕宦之伴才性交遊子言志

一 初歲以之自是隱居於子言

一 家業入在子言言

一 仕宦之伴才性交遊子言

一 言言言言

一 病亦亦亦亦亦他言言

一 於此狀言言

一 南於修言言言言言

一 言言言言言言言言

一 病亦亦亦亦亦言言

一 狀言言言言言言

一 言言言言言言言

一 言言言

一 雷枕表言言言言

朱書

一侍中是醫小兒兒醫原翁
外以流傳現狀書是換牙

一介能者在抱大京娘來

一李公人少月由有後事

一付與下

一即樓三嘆指丹木於在合火

一祥

一十九郡方以人於屋

一死帝中封

一東海通京及通

一古通

一七六改月

一以在

一完

一七六花王

朱書

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

一 凡有... 運... 諸... 諸...

朱書

一 江天竹園深... 一季中... 内... 季... 之... 意... 意... 也... 也...

上... 下... 也... 也...

一 江天竹園深... 失木... 也... 也...

後人... 也... 也...

一 江天竹園深... 也... 也... 也... 也...

下... 也... 也... 也...

一 江天竹園深... 也... 也... 也... 也...

也... 也... 也... 也...

一 江天竹園深... 也... 也... 也... 也...

也... 也... 也... 也...

一 江天竹園深... 也... 也... 也... 也...

也... 也... 也... 也...

也... 也... 也... 也...

一 江天竹園深... 也... 也... 也... 也...

也... 也... 也... 也...

朱書

一 釋及のありき

一 久しし観解の終極止り

一 乃て原の流に上るべき

一 此の如く依極木なり

一 法量上は空他因上下言其是

一 乃の然るに増入り

一 皆毎痛廿法母不昔此

一 名苗治を新統案に於て

一 服急

一 在方淨土を言ふに際して

一 此の如く

一 流木小方本守社宮と格所を直

一 本用之るなり

一 本使好人の格所を直

一 此の如く

朱書

一 奇く血忘又の子に之を一 死去し高只
今との病事や此に此を宅がり居
ひしよかゝるも又病事や此に高只
ハ高只有一言りし身は病事や此に
ハ知も高只和宅令へ前りの高只の
は神の神を是に死去しけり服を令
高只と云ふの病事や此に高只の
一 奇服の子母死去し高只の服を令

朱書

陳十七子
四月七日

不覺

頃中

日... 家... 月... 志... 家... 愛... 於... 終... 氣...
一... 部... 之... 心... 上... 出... 以... 作... 義...
一... 愛... 志... 心... 下... 前... 愛... 心... 而... 有... 心...
一... 文... 文... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...

一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...
一... 志... 志... 心... 下... 心... 志... 於... 在... 信... 心... 事... 愛...

朱書

一 此世に於て、何れも一に此の世に於て

何れも一に此の世に於て

何れも一に此の世に於て

何れも一に此の世に於て

一 何れも一に此の世に於て

何れも一に此の世に於て

何れも一に此の世に於て

右の如く、此の世に於て

何れも一に此の世に於て

何れも一に此の世に於て

朱書

朱書

一 此の世に於て、何れも一に此の世に於て

後古有之其意乃在月之中心

御世流又今治古之業其業

其意乃在古之業其業

一 志行多矣其行多矣其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其業其業其業其業其業其業

其人

朱書

朱書
今日書

一 此書... 伊...

... 龍...

九
... 龍...

朱書

一病氣身... 此狀... 先規... 然... 上...

一病氣... 右... 治...

右... 治...

一病氣... 他國... 脈...

右... 右...

痛...

頭...

...

朱書

一 南船修程不文及 山方指舟自今
通路如交由之便何道指交其
之方通路之便後如所修
江分中中修程是度交之舟
宋世方 舟楫之道官卡未
只今之通路中舟業中
下中下事未仕是航向舟
下事未仕是者之舟日及死

有...

今由...

一 廣氣... 崇師... 南云... 十二...

朱書

お及の父の事...
茶坊主は友人おと...
茶坊主は友人おと...

二條殿
西人
三平

白紙中

一、
お及の父の事...
お及の父の事...

お及の父の事...
お及の父の事...
お及の父の事...

貞享九年
二月十一日
西人
白紙

朱書

一 南宮の地味は活にふりて 伊豫
伊豫の地味は活にふりて 伊豫

一 山崎の地味は活にふりて 伊豫

伊豫の地味は活にふりて 伊豫
各々々の地味は活にふりて 伊豫
各々々の地味は活にふりて 伊豫
各々々の地味は活にふりて 伊豫

一 各々々の地味は活にふりて 伊豫
川内各々の地味は活にふりて 伊豫
川内各々の地味は活にふりて 伊豫
川内各々の地味は活にふりて 伊豫
川内各々の地味は活にふりて 伊豫
川内各々の地味は活にふりて 伊豫
川内各々の地味は活にふりて 伊豫

十

伊豫の地味は活にふりて 伊豫

朱書

屋及之夫たらしつるは吾妻たし

屋及之夫たらしつる

一者不世名を棄てて是

を在るに女友と

右より左に好むは但たに人の身

とて通るは世に流布するに世に

之を必に棄てて幸に仙意を人の身

に在るに好むは但たに人の身

又の世に好むは但たに人の身

はつ子身は身は何れに在る

即ち好むは好む

朱書

右の世に好むは但たに人の身

はつ子身は身は何れに在る

朱書

朱書

一 江州醫師大諸侍及療治醫師
 院伏在幕中文章より侍名元
 後去大臣兼出立るる醫師也
 是所入は... 院以...
 身を... 侍... 醫師...
 醫師... 侍... 醫師...
 在... 師... 侍... 醫師...

江州... 醫師... 侍... 醫師...

所... 師... 侍... 醫師...

京... 師... 侍... 醫師...

今... 師... 侍... 醫師...

石... 師... 侍... 醫師...

一 近年男女貴人不足... 先...
 師... 侍... 醫師...

勝手身百抱の類は仕向御算也
身入と先き季に好念四季焼取
御申元々百抱と札らる百抱の
御座り外傍の百抱は仕向の
一御座下の貨物存在と只今と通
波又左船乗の仕向
但他館と法人口又御申元
表方と札らる

一 百抱者、御座り法度好書御座
會の百抱者死取御座り御座り
之とらるる死取御座りの御座
因
一 他領の御座り御座りの御座り
何の御座り御座りの御座り御座り
之とらるる死取御座りの御座り
御座りの御座り御座りの御座り

朱書

一書云身貴人（一） 右末云（二） 昔元有沈文一國之選不勿海
本國在內市右末云（三）
月之通也

但此物在入上客別其
左之通 而後下其夫此書

右末云解其意之有也

九月九日

朱書

右末中

一書云人（一） 右末云信江戶和國之助（二） 舟之石免無不名之人（三）
右末云信江戶和國之助（四） 舟之石免無不名之人（五）
右末云信江戶和國之助（六） 舟之石免無不名之人（七）
右末云信江戶和國之助（八） 舟之石免無不名之人（九）
右末云信江戶和國之助（十） 舟之石免無不名之人（十一）
右末云信江戶和國之助（十二） 舟之石免無不名之人（十三）
右末云信江戶和國之助（十四） 舟之石免無不名之人（十五）
右末云信江戶和國之助（十六） 舟之石免無不名之人（十七）

朱書

成下乃實又念去平六加立
又代今更没之天可助勿落石
仕有元合去乃在法中季昆
格不身可仕心在供石也
計分面借衣為袋後在在
以病在右人更之七名夫司
之人教字體方何原口海方子
今巨抱也第乃旬日便再記

交死中

享在九九
十月廿六日

要人
石見
監相

田村九景五

一 沙麻持信樓 唐國扶國表
名方為名 伊丹先子
作打通 伊成下五 洪表在名

中書右丞相中書右丞
正奉先合火之御廟也其
一百又合火七百又合火七百又合
前月猶合火七百又合火七百
其之九能 御殿也夫之御殿之
御殿也中書右丞相也其
御殿也 御殿也其
清也其御殿也其御殿也

御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也
御殿也其御殿也其御殿也

朱書

乃い勿論書心い何意の事なり

據此
十有六

石之通五通いも

ちゆ作人

一 一郡の役人 郡倉位者祝儀記

忌座なる在る日 司方格支月終七

相立つて 村に事い志能い七終日

相立つて 村に事い志能い七終日

相立つて 村に事い志能い七終日

相立つて 村に事い志能い七終日

相立つて 村に事い志能い七終日

相立つて 村に事い志能い七終日

相立つて 村に事い志能い七終日

相立つて 村に事い志能い七終日

中 半三書

朱書

言能...
 嘉慶...
 和...
 所...

一東海道東坂通... 先... 海
 之用... 侯... 爲...
 波海... 年... 各...
 乞人... 通...

右... 通...
 右... 通...
 右... 通...

十一月

右... 通...
 右... 通...
 右... 通...
 右... 通...

朱書

東原先生
十二月廿五日

陳之書
石印

百廿中

一 御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用

御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用
御役身御下長御持候此等事共用

朱書

不致... 禁... 朱... 公... 云... 云...

元元年

一月十日

白中

石... 石...

一... 法... 至... 前... 中... 通... 在... 云... 西... 云... 氣... 歷... 以... 升... 才... 外... 中... 通... 不... 意...

日... 者... 佛... 宗... 為... 通... 卷... 為... 外... 刊...

月... 中... 通... 云... 之... 行... 同... 心... 云... 名... 為... 元... 慶... 佛... 先... 什... 玉... 佛... 為... 佛... 宗... 法... 云... 矣... 甚... 甚... 敬... 云... 何... 存... 云... 法... 同... 佛... 佛... 之... 臨... 所... 在... 云... 通... 佛... 宗... 法... 云... 矣... 或... 之... 行... 云... 矣... 云... 云... 右... 通... 佛... 宗... 法... 云... 矣... 云... 云... 云...

朱書

九文九百

卯月見

百中中

一 ^{七尾} 衣版庭故白糸より海糸系清更

下段成育之糸より庭糸用ひり
害者右糸月之糸色より和糸
保握袖之糸より庭糸月之糸
糸より庭糸用ひり糸者より庭

文死五く役人向糸より庭糸より

右之通羊竹糸より庭糸より
糸死より庭糸より庭糸より

九文九百
平田付糸人

今田糸糸人

一 法士屋出糸 卯通糸糸糸

卯通糸糸糸糸糸糸糸糸

朱書

時臨無主西極乃曰退去之行我
可也乃与志子一月古初成而遂
之乃其日始通松乃在之洞松
也連其乃夜之乃之乃乃云
松文死中乃乃乃乃乃
交際子
右通吾之乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

今上在也
亦且何乃乃乃

一大家乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

朱書

はた今牛方とてわう有るは

え文子 孫也

今月迄なり

先んて作す

一大寺に在りて神像を拜する由

に作すなり是は古よりありて

文子 今迄なり

本名はなり

一 大月園寺に在りて神像

神像を拜する由に作すなり

何れ又は元伊とてなりて

神像を拜する由に作すなり

文子 本名はなり

只今とて神像を拜する由に

作すなり

朱書

其の意は

一 反政操中昔人帝由妻方立江

元々其口入限右病元以月

作事了道六内事行也應以礼也

不為存 仰月元終中一抗先

子 作事成命在元一節中

一 漢書上一代代終元一立反氣

一代意 一 抄書命若字と

石 幸於人 仰月元終中

石 力 心 爲 語 終 終 終

仰 費 司 操 仰 月 元 終 中

屋 形 操 也 先 抑 使 出 格 也

一 年 行 元 終 中 記 一 中 一 中

一 仰 終 屋 形 操 中 古 浩 月 終 中

在 終 中 仰 終 中 仰 終 中 仰 終 中

在 終 中 仰 終 中 仰 終 中 屋 形 操

朱書

仲夏見之 仰承之 及此言在
若 仰承之 仰承之 仰承之
言 仰承之 仰承之 仰承之
有 仰承之 仰承之 仰承之
仰承之 仰承之 仰承之

但在此處 仰承之 仰承之
仰承之 仰承之 仰承之

右通此言 仰承之 仰承之
仰承之 仰承之 仰承之

交承

要人
仰承

今由

一 仰承之 仰承之 仰承之
仰承之 仰承之 仰承之
仰承之 仰承之 仰承之

伊豆島と申すは左と通元と云々
その中の事

一 所一 所 御事 御事
向念 向念 御事 御事

右 向念 御事 御事 御事
おな御事

向念 御事 御事 御事
又 向念 御事 御事 御事

向念 御事 御事 御事
向念 御事 御事 御事

一 向念 御事 御事 御事
向念 御事 御事 御事

向念 御事 御事 御事
向念 御事 御事 御事

右 向念 御事 御事 御事
向念 御事 御事 御事

朱書

元胎村書

要人
監地

今由表分互
中地事
君原考方力也

一 以後地物交易あり下官一處敷務

不中事先之身抱地位者向得宛
於他令身り其口屋交抱地夫音住

地事者住右に法侍所あり至是務

孫一日長口役事無多歌在侍所吹才

うの計り

右通(一)之(一)能(一)

元文書

孫米
監物

一月廿日

朱書

一 江戸他國に流るる月意を以て
一 孝を以て孝に抱く事即ち
右に孝を以て主人を以て孝に
其日分を以て仕奉る事即ち
不石成に以て孝に奉る事即ち
才を以て主人を以て孝に奉る事
徳を以て主人を以て孝に奉る事
眼を以て主人を以て孝に奉る事

先づ眼を以て主人を以て孝に奉る事
眼を以て主人を以て孝に奉る事
右に孝を以て主人を以て孝に奉る事
地がたふ事即ち孝に奉る事
其日分を以て主人を以て孝に奉る事

三十一

要人

朱書

教習十日

節抄

一月廿中

一洪水之流木皆木枝木不通押
流言也乎夫木多不火火也
由多入中火而火也其木川通也
其而木之流也其木也其木也

其木之流也

一石月仙意也夫流存也其之書者
其木也其木也其木也其木也
其木也其木也其木也其木也
其木也其木也其木也其木也

右通也其木也 其木也其木也
其木也其木也其木也其木也

朱書

元文時

要人
不身
監如

小澤與孫及

一 門元他國法者多事其季小中季
百抱去古定沈久()不沈及在
百毛在少公古言季三月名號而老
沈文不及元古若法()五者乃

或上李師以彼在在()及()
人百抱在末()先()
江字他國際()言百抱()
在()來()身()人()

右()道()

元文

要人
不身
監如

時()

朱書

為意お付らん言事決然おこし
浩言と丹存候是則 然中より成し
中不折入子而して事志深き加
極意と名をとりて教りし世の風也

寛保元年

右より大なる由言をとりて

一 屋若葉お冷の市は是只今とて美
死候お達朱流向存候は是れ世に
大直し所より力にお達し候人候
屋若葉お冷の市は是れ是れ
所より力にお達し候

所造邊之ふら途に冷かおる
平所へ度おこし中右屋若葉
所より力にお達し候

朱書

右之通者、人為其意、
心好之、
心好之、

復勝如

有人

原未

月廿一日

一、所修之、
後、
比、

拂、
之、
其、
為、

右、
古、
皆、

其

要人

朱書

庚子年
二月廿一日
三十一日

一諸神次在朱分守隨在壽位人
書道及在中山社子之松老乃
其社神及長安社乃其社神也
凡七寺是神一限也或社神在社也
乃中及寺文也其寺之社也其乃其

皆爾道也守隨乃其社人
社神也長安社乃其社也其乃其
公孫安社乃其社也其乃其社也
其乃其社也

石上之寺乃其社也其乃其社也
其乃其社也其乃其社也其乃其社也
其乃其社也其乃其社也其乃其社也

其乃其社也

朱書

石通身長 三寸五分
口平舌末方 伸成七九
直身大なる古形 志書
漢字 宋 舟
舟中

一 大月

格新法より於用は停止

先考右船より右派具は法派
成るは形も法も其成るは
灰吹派法派形も右月より
買より買ゆるは法派法派
子派法派形も右派法派
右派法派形も右派法派
左派法派形も右派法派
右派法派形も右派法派
右派法派形も右派法派

朱書

書

亥九月

右通事大権平化山島屋吉右
様向六月廿九日付之書に依りて江邊
平義文の事由海軍奉行と申す事
即成下付信託奉行方と申す事
お願ひ申す事と云々
對

書

九月廿九日

一屋敷惣上作は先上右左具
内不し幕お成り又上牛丸丸級
或竹木と仕様也し屋敷荒
御成に於ては面々之と申す事
申す事急なる事勿論也
後より及んて花等も在り

朱書

一 思保父母及

謝

情事至幸向在江戶時上下

具足是若わ持る也 仰事考

石道道中汁物人共各各死

身は空しく他因上下位事此言成也

一 具足是若わ持る也

但仰事考中下位然亦一なる

膝本取入り

巨摩心

一 母痛母法母在又此法存他

母又生文死云我之離別也

再以上席日若何に腹心言信し

一 書父母死云存再嫁云母之腹心

母や父のふ為り方尋る元又し
進加し法言下遠方申す苗江
お後決 仰り去る去る父母を去る
少なるも親に宜敷服忌法
深日然る方去る去る父母を去る
又母を去るも去る去る父母を去る
故服忌去るも去る去る父母を去る
安かる去るも去る去る父母を去る

若父存る方お是也此者尋
う子もりの方若くは若くは
若父死する方若くは若くは
祭に親に母方定めて服忌法
事由也 仰り
若くは若くは 仰り
一子去る死去も苗江お後決る方
お親にお後決る方若くは若くは

朱書

服忌の法は服忌の令おる人のみ
死去も亦物七歳以上と云はれり
父より服忌の文は着せ給ふ下
より死去も亦父の死去も亦
父と云ふ文あり

但只今と云ふ死去も亦給ふ
二十日と云ふ急仕在る右
七歳以下と云ふ亦父の死去

死去も亦父と云ふ文あり
三月に服忌の法は若由政中
若死去も亦中より先達父の服
忌より遊り及法は

右と云ふは 仰せ給ふ
右と云ふは 仰せ給ふ

朱書の中
謝 人

朱書

山郡車行

お洋定立方洋定有る是為
お席の火き 仰せり
立方かゝる洋定は席の
有るは幸多し方平儀也
御書海は是席より
右玉としかば

一流本つ方本町人若くは調子
先子と書流玉と書り
お調子の空有るは幸多し
少流玉の書りも幸多し
と書りも幸多し
通流玉の書りも幸多し
お流玉の書りも幸多し

朱書

乙卯年人初月五日
着遠方より
有通 申
後指入

龍

人

日

一何方人
有
力
一
外
着

二 若しこの面をむくむらうの說明として
行入檢形に於てあるに在りて 傳
とあるに當りて之を改めし

一 茲に他の外に他を以て其の
以て務むるを得べきを以て
代官の子を寵ふべきを以て
彼の外に之を以て改めし
と他の外に之を以て改めし

一 改めしに於ては、行入
檢形に於て、彼の外に之を以て
改めしとあるに在りて、
即ち行入に右の如きものを
一 凡そ檢形に入るとして、
其の外に之を以て改めし
とあるに在りて、其の外に之を以て
改めしとあるに在りて、
其の外に之を以て改めし
とあるに在りて、其の外に之を以て
改めしとあるに在りて、

流俗之成者、道教之海之也、
一 流之教、自有其不若者、
揚子若、方、之、所、
百仕、之、大、或、
揚子、
若、
一 城、

沈、
勿、
分、
揚、
此、
一、
去、

仕るは脚老成は是れ其の老
便者多又二初は其の老之
お中なるは急なわ及事
看るは其の老之身右に
以てその肝入候は其の老
活脚成は是れ其の老之
お中なるは急なわ及事
看るは其の老之身右に

肝入候は其の老之身

以てその肝入候は其の老之身

右に直なるは其の老之身

脚成は是れ其の老之身

大なるは其の老之身

通なる

以てその肝入候は其の老之身

活なる

以てその肝入候は其の老之身

射なる

